

まめなかの

〈発行〉
西郷町城北町
隠岐病院長



年頭にあたって



隠岐病院院長
山代 昇

新年明けましておめでとうござい
ます。今年皆様におかれましては、幸
多き年でありますように、また、病
気療養中の患者の皆様の一日も早い
御回復されることをお祈りいたしま
す。

昨年は日本の医療では、薬害エイ
ズ問題、腸管出血性大腸菌O115
7感染症の流行等が、世間をさわが
せました。今年世界および日本の
社会が、平穩であるように願ってい
ます。

隠岐病院では一昨年四月より取り
組んでいました、隠岐病院経営安定
化事業と島根県による隠岐圏域にお
ける医療計画事業が、今年度よりい
よいよ実行される年です。

その内容の概略は
① 医事業務のOA化を推進する。
② 眼科医師の常勤化をはかり眼科診
療を充実する。

- ③ 救急業務を充実する。
- ④ 病診、病病連携を推進する。
- ⑤ 人間ドック機能を充実する。
- ⑥ MRI（磁気共鳴画像診断装置）
の設置により、頭部疾患、整形
外科疾患の、診断の向上をはか
る。

以上の事業を行い、入院および
外来患者さんのサービスの向上を
はかる所存です。勿論、機器類の
整備だけではなく、職員の患者さ
んへの接遇の向上等も同時に行う
所存です。

今後とも地域の皆様、隠岐病
院に何を求めておられるか、また
当院に何ができるかを常に考えな
がら、地域に密着した医療と保健
業務に職員一同が邁進したいと思
っています。

皆様方のご支援とご協力をお願
いいたします。
平成九年 一月

お知らせ

- ◆ 再来患者さんの受付方法が少し変わります
（月初め）
 - ① 薬、リハビリ等該当するカードを選び
（窓口にて用意）、診察券と保険証を添
えて受付箱に入れ
 - ② 診療される科の前でお待ちください
（その月2回目以降）
従来どおりです

- ◆ 歯科受付について
予約制になっていますので、電話等で予約
してからおいでください。急患の場合は、
この限りではありません。

- ◆ 思春期外来実施
当病院精神科では、2月より思春期外来を
開始することになりました。思春期におけ
るさまざまな悩みについて、相談から治療
までの幅広い形で対応していきます。不登
校、拒食、過食、対人関係の悩みなど何
でも結構。 — 要予約 —
詳しくは、精神科外来まで。

意見 申す!



病院内に設置されている意見箱
の中より、皆様のご意見を紹介す
るコーナーです。

☆内科の診察は、順番をさしく
らず来院した順にお願いします。

☆受付が朝の七時三十分で、診療
が十一時ではあまりに遅いよう
で、途中に何かカラクリがある
のでは？

その他たくさんご意見をいた
いております。又、その答弁、回
答を院長および事務局長にしても
らう企画も考えております。
皆さんのご意見待っています。

「内科再診 予約制」へ

「内科再診 予約制」へ

上記意見箱の意見にもありまし
た診療待ち時間については、長年
対策のないままでしたが、「外来
サービスの向上のためのプロジェ
クトチーム」の案により、診療待
ち時間を短くするために、患者さ
んの希望する日時を指定してもら
い受診してもらう「内科再診予約
制」が、二月より始まります。

※内科のみです。
※電話による予約はできません。

詳しくは、別紙「内科通院中の
患者さんへ」をお読みください。
その他ご不明な点がありましたら
内科までお問い合わせください。

私の名前が 決まりました!

名前は「まめなかの」
命名者は「斎藤靖」さん
（隠岐病院検査室）

隠岐病院職員の中から
名前を募集したところ三
十余名の応募がありました。
た。わが子の名前をつけ
るのも親として悩むもの
ですが、広報紙の名前と
しても素晴らしいものが
多く、編集委員会でも決
め難い状況でした。そこ
で委員に三pointsずつ投票し
てもらい「まめなかの」
「医々とも」「おきたん
ぽぽ」「すこやか」の四
点にしぼりこみました。
このうち「まめなかの」
「すこやか」の二点につ
いては僅差であり、決戦
投票の結果やっと決まり
ました。「まめなかの」
とは、元気にしてますか
おかわりありませんか、
とあん気でしたっしょな暮
らしの手伝いができるよ
う、いつも医療の情報を
提供していただたら、と命
名者の言。また題字には
島後町村組合の毛利道生
管理者に筆をふるって
いただきました。



神経内科って

どんな科なの？



神経内科部長

小出 博己

神経内科・神経内科疾患とは・・・

神経内科は神経系および筋肉系に原因がある病気を内科的に治療する科であり、一方、精神科は精神に何らかの異常をきたした疾患(精神分裂病、躁鬱病、神経症(ノイローゼ)等々)を扱う科であります。

神経系は、

①中枢神経系(脳(大脳、小脳、脳幹)と脊髄)

②末梢神経系(脳より出る脳神経、脊髄より出る脊髄神経)とに分けられます。(図1参照)

神経はその働きを分担しております。従って障害のある場所によって症状がそれぞれ特有の症状となつて現れてくることとなります。

では、神経内科で扱う病気にはどんな病気があるのでしょうか？最も多いのは脳卒中(脳出血、脳梗塞、くも膜下出血)ですが、ほかに脳炎、髄膜炎、老人性痴呆(看護その他の問題もあり、精神科で扱うことが多い)、隠岐病院精神科は老人性痴呆疾患センターになっております)、脳血管性痴呆(脳梗塞や脳動脈硬化などによって起こるもの)、筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、中毒(急性の薬物や有害物質の誤嚥によるもの)但し、お酒による慢性アルコール中毒は精神科で診ます)、筋ジストロフィー、てんかん(脳卒中や脳炎の後遺症として起こる二次性のもの)但し、原因のはっきりしないものや精神科の病気を伴うものは精神科で診ます)、重症筋無力症等々があります。

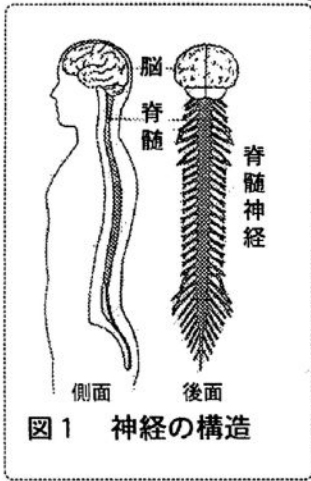


図1 神経の構造

神経内科での病気の主な症状としては、意識障害、けいれん、頭痛、めまい、しびれ、ふるえ、筋力低下や麻痺、歩行障害、感覚障害、言語の障害、物忘れ等々があります。以下代表的な症状について少し説明します。

◆意識障害、脳出血、脳梗塞、脳炎、脳腫瘍、頭部外傷、低血圧、てんかん、低酸素、心臓発作、ガス・アルコール・薬物の中毒、尿毒症、肝障害、糖尿病などによる脳の代謝障害などでみられます。

◆けいれん、てんかん、脳腫瘍、脳炎、髄膜炎、ヒステリー発作、尿毒症、脳卒中、頭部外傷で起こります。

◆頭痛、注意しなければならぬのは、くも膜下出血、脳腫瘍によるものです。多くの頭痛は、緊張性頭痛といって肩や首の筋肉の緊張しすぎに原因がある場合であります。

◆めまい、めまいは大きく二つに分けられます。一つは周りが回転するように感じるタイプで、多くは、内耳や内耳と関係の深い脳幹部のなどの障害で起こります。もう一つは、何となくフワフワ、クラクラするように感じるタイプで、多くは血圧が変動しているとき普段の血圧より相対的に血圧が下がったときに起こります。

◆ふるえ、振戦と呼び、じっとしているのに手や足、あるいは頭などが震える場合、また何かしようとしていたりして手が振るえる場合などがあります。主に中枢神経系の病気で起こります。

◆筋力低下(まひ)、脳、脊髄、運動神経あるいは筋肉の障害で起こります。筋肉の障害によるまひとして、筋ジストロフィー、多発性筋炎などの病気があります。

◆感覚障害、脳卒中などで大脳に病巣があると半身の感覚障害が出現します。

◆言語障害、ろれつがまわらない、人の言う言葉の意味が分からない、言おうとする言葉がうまく出ない(失語と言い、脳卒中の一症状としてみられる)などがあります。

◆痴呆：老人性痴呆は現在のところ治療薬はありませんが、脳血管性痴呆ではその進行を遅くすることが可能な場合があります。また治る痴呆として甲状腺機能低下症にもなつて起こる痴呆は、甲状腺ホルモン剤で治療可能であります。

神経内科の検査には尿、血液検査、レントゲン検査、CT、MRI※、脳波、髄液検査、血管造影検査、(脳)血流検査、筋電図検査、病理検査、自立神経機能検査、知能検査、心理検査等があります。

※MRI検査機器については、平成九年度中に整備を予定しております。



看護婦会の広報活動のひとつとして、「クリスマスカード」を作成し、十二月二十四日のクリスマスイブの日に、入院中の患者さんに届けました。病棟・外来看護婦が色づけをし、「早く元気になるって!」「病気に負けないで!」などのメッセージを書き添え、各病棟の患者さん一人一人に手渡ししました。

患者さんの嬉しそうな笑顔を見て、「ああ作って良かった。喜んでもらえて良かった。」と届けた私達にも笑みがこぼれました。また、「看護婦さんはこんなこともされるんですか?」と驚いている患者さんもおられました。

これからも地域の皆様のご存在になれるよう頑張りますのでよろしく願います。

看護婦 (Y・U)

昭和五十八年より勤務しておりました、総婦長渡部美知子氏が、昨年八月より闘病生活を送っておりましたが、本年一月四日午前、永眠いたしました。

紙面をお借りして、広報紙の発刊を楽しみにしていた故人のご冥福を祈ります。